

第11回技術研修 手ごたえ充分に終了!

去る7月28日29日の両日に、11回目の技術研修が、和歌山県みなべ町で

実施され、河川海洋調査課が技術の向上を目指して炎天下で奮戦した。28日の第1日目は、ADCP曳航観測オペレーションを集中的に研修した。参加者は吉川社長、小谷係長の監督下で、山本君、浦谷君の他、企画情報室 榎田係長、そして、潜水計画課 堺係長に操船の協力をしてもらい、9時30分スタートで、みなべ町堺港沿岸を走り回った。

記録的な雨量をお土産に梅雨が明けようとする中、沿岸の暗礁地域を熟知した吉川社長が航路指示をして事故の防止と研修の充実度を高める役をこなして頂いたが、18時に陸(おか)に帰った時には、日焼けを通り過ぎた「ゆでダコ」状態で見ても無残な病人と化していた。社長いわく「今年の春以降、夜の・いやいや、昼の太陽を真剣に浴びたのは今日がはじめてやな……」。みんなは黙々と水道をひねり、観測機器の洗浄と後片付けに励んでいた。

当日は西風が強く吹いて70cm程の波が立ち、微速前進せざるを得ず、70馬力の船外機船が波と風に煽られて、曳航研修にはハードな状況ではあったが、それがあって、いい勉強になったと考える。また、GPSが衛星を拾わなくなったり、ADCPのデータトラブルが発生したりしたが、トラブルの対処方法を身に付けることが出来て、研修としては良い結果を得る事が出来た。各人3ライン4サイクルの曳航を経験して、その夜のバーベキューパーティーでは肉とビールを腹いっぱい押し込んでいた。

2日目は、28日の夕方に到着した外注者の梶谷君と芦辺君のユニットリーダー研修を、堺係長操船で、社長と山本君監督指導の下、CSTD計測及びGPS誘導を繰り返し研修した。小谷係長、浦谷君、榎田係長はADCPデータ解析の為、帰阪した。空耳だとは思いますが、山本君は、「もう、いいでしょ。」と梶谷・芦辺両氏の声が聞こえたような気がしたらしい。(編)

セクションリーダーを終えて

2月から5月中旬にかけて、潜水計画課の期間リーダーとして堺係長が選出され、業務を実行した。その完了レポートの抜粋を紹介しよう。

「本年2月から潜水計画課のローテーションリーダー制が決定された。第1回目は私で、任期は3ヶ月半である。私は何故か、工事技術協力の出張が多く、セクションのリーダーはもとより、当社の現場管理を経験する機会が無かった事から、同じキャリアを持っている二人のリーダーとして実力不足ではないかと、戸惑うばかりだった。

リーダーを任命されてすぐの河川における鋼矢板腐食調査は反省の連続だった。打合せで十分に話を詰める事が出来なかったり、資料の確認がおろそかになったり、事前計画を立てる余裕がなかったりと、よく言えば、勉強の連続だった。人を使う事の難しさ、先方とのやり取りの重要性、自分自身の技術力、応用力、判断力、責任感等全てにおいて力の不足を感じざるを得なかった。

その経験を生かす事が出来たのは、2週間後の日本海側漁港施設内の腐食調査で、準備計画から報告書作成までの全工程を余裕を持って遂行できた。報告書の内容に関しても、顧客に大変喜ばれ、自分自身でも、充実した結果を出せたと考えている。

この3ヶ月余りの経験は、とても有意義だった。リーダーを経験出来た事で、考え方に幅を持たせられるようになり、違った角度から物事を見る目も養われたようだ。人の上になつた為の第1歩を歩めたのではと考えている。」潜水計画課水工設備係 係長 堺 栄市郎

(編)「仕事は社会の為にする事で、自分に実りがもたらせられる。」とは社長の信念だが、現在のリーダーの野中係長に、その言葉をプレゼントしよう。

みである。しかし、GISソフトを利用した成果品の作成は初歩段階である事から、すでに購買会議で承認されているGISソフトの購入を急ぎ、オペレーティングワークを早期の内に習得していく事が先決であると考えます。

GISソフトで有望視されているのは、SISのGISシステムで、このシステムは顧客との互換性、拡張性等にも優れており、現状における成果品作成上にも役立つ事は間違いのないであろう。8月中の購入が予定されている。(企画情報室)

最近の動向

「平成18年度豪雨」では、日本各地において土砂災害及び浸水被害が頻発した。

国土交通省2006年度版水資源白書では、日本の年間降水量は100年前に比べて減少傾向にある一方、経年変動幅は2倍近くに広がっている。

つまり、災害が起こりやすくなっているという訳だ。このような傾向を踏まえ、今後において、当社の防災、被災関連技術協力のあり方が重要となる。

河川流量観測、土石流調査、地滑り調査、洪水痕跡調査、倒木倒伏度調査等の技術協力は、経験済

[8月度技術協力結果] 主要抜粋

潜水計画課

- ・プラント内沈殿池浚渫作業 3件
- ・鋼管防食作業 1件
- ・大型作業台船組立作業 2件
- ・波高計撤収作業 1件
- ・小型船舶操縦業務 1件
- ・福岡営業所応援 3件

河川海洋調査課

- ・ADCP曳航観測及び解析業務 2件
- ・沿岸波浪解析業務 1件
- ・海洋環境モニタリング調査 4件
- ・河川環境モニタリング調査 1件
- ・潮間帯付着生物目視調査 2件
- ・福岡営業所応援 4件

福岡営業所

- ・ADCP曳航観測及び解析業務 2件
- ・計測機器水中設置業務 4件
- ・計測機器水中点検業務 2件
- ・柱状採泥潜水業務 4件
- ・河川環境モニタリング調査 1件
- ・海洋環境モニタリング調査 3件
- ・騒音調査 1件
- ・AAQ-1183レンタル 1件

次回の9月号特集は、高額計測機器損傷防止基準の策定に関する記事です。